

2006年度第4回 第22期理事会議事録

日時：2006年10月8日（日）14:00～17:30

会場：東京外国語大学本郷サテライト

出席者：須藤、上杉、大塚、小田、春日、窪田、栗本、瀬川、関、田中、棚橋、富沢、永淵、松岡、松田、三尾、森山、山本、吉岡、和崎

委任状提出：赤堀、スチュアート

〔承認事項〕

1. 前回（2006年度第3回）理事会議事録

〔報告事項〕

1. 会長報告

- ・次の4点を報告。①学会による朝日賞の推薦書を8月に提出したことについて②中教審の状況と、学会の対応の必要性について③社会調査士認定機構が9月に理事会を開催したことについて④『文化人類学』71巻2号の再発送について。

2. 庶務理事報告

- ・新入会員（12名）につき、総務会で入会を承認したことを報告。

3. 広報理事報告

- ・研究大会準備委員会のホームページは今後、学会サーバーの中に研究大会の場所を作成すること、メールアドレスの期間中の使用を認めるようにすること、またそれらの使用に関するマニュアルを広報情報化委員会で作成し、次期研究大会準備委員会に渡すようにすることを報告。
- ・学会独自サーバーへの移行作業に伴い、月内にこれまで利用していたリムネットを解約予定であることを報告。
- ・文部科学省の平成19年度科学研究費補助金へ「研究成果公开发表」の категорияで応募することを報告。

4. 各種委員会報告

- ・『文化人類学』編集委員会：『文化人類学』71巻2号が印刷所でのPDF化の段階で文字化けが発生し、再印刷・再発送を行うことについてお詫びと報告。また、編集委員会にて論文や資料と通信、研究ノートの区分について投稿規定に明文化すること、新刊紹介と書評の区分をなくすことを検討中であることを報告。
- ・JICA編集委員会：委員の増員について次回理事会で提案予定であることを報告。
- ・国際連携委員会：国際連携委員の小泉潤二氏が9月17日～23日に英国ブリストルで開催されたヨーロッパ社会人類学会及び人類学会世界協議会（WCAA）の国際会議へ学会代表として出席したこと、旅費は学会予算から支出されたことを報告、次回理事会で小泉氏より提出されたWCAAの報告書を回覧することとした。
- ・地区研究懇談会担当委員：上杉理事より関東地区研究懇談会を10月7日（土）に開催したことを報告。
- ・学会賞選考委員会：近日中に準備にかかる予定であることを報告。
- ・『文化人類学』中事典編集委員会：編集委員会と丸善との話し合いの結果、大項目を設定したこと、理事・理事外の委員を設定し委任状を会長名で発送することを報告。2年後位を目途に出版の予定であり、詳細は確定後に報告することとした。

5. その他

- ・山本理事より、日本学術会議について、第二次連携会員が決定し人類学分科会が発足したことと、2007年度頃にシンポジウム開催を検討していること、学術会議がIUAESの会員となることが課題となっていることなどを報告。また、10月初めに開催された総会で声明「科学者の行動規範について」

が最終的に決定したことと、これまで学会連合体が協力学術研究団体の認定条件であった機関誌の発行が条件から外される見通しであるため、人類学関連学会協議会、文化人類学・民俗学関連学会協議会が登録できる可能性について報告。

- ・研究大会担当の大塚理事より、第42回研究大会開催校が京都大学に決定したことを報告。

[審議事項]

1. 「学会賞受賞記念論文」の英語名について
 - ・吉岡理事より、「学会賞受賞記念論文」の英語名として“JASCA Award Lecture 2006”が提案され、承認された。
2. 入会手続きの変更について
 - ・森山理事より、入会手続きについて次の提案があった。①入会手続き案内の、研究大会における入会申込書の受付が明記されている部分等の削除・訂正について提案があり、承認された。②入会申込書の記入項目を会員調査項目にあわせて項目を追加・変更することを提案、承認された。それに伴い入会申込書「記入上の注意」を新たに作成したことを資料に基づき説明、内容について検討の上、若干の訂正の上承認された。
 - ・託児所の設置と非会員の研究大会当日参加を認めることを決定し、申し合わせを総務会で作成し、次回理事会で報告することとした。
3. 研究大会研究発表予稿集・要旨集のネット公開について
 - ・山本理事より、独立行政法人科学技術振興機構（JST）の運営しているJ-STAGE（科学技術情報発信・流通総合システム）を2007年度研究大会から研究発表の登録と要旨集の公開に利用することが提案された。予想される問題点等について意見交換の結果、2008年度研究大会からの導入を目指してさらに検討を続けることとした。
4. 文献データベース計画の見直しについて
 - ・山本理事より、技術的な問題と書き込み数の面からデータベースとしての運営に関し意見が出され、議論の結果、先方との関係を調整しながら見直しについて伝えていくこととした。
5. 中教審への対応について
 - ・森山理事より、文部科学省への陳情書「地理教育の重要性を訴える」を日本地理学会など5団体とともに連名で9月15日付で提出したことについて経緯とともに説明があり、今後、本学会が独自で活動を展開する必要性が話し合われた上で、事後承認された。
 - ・須藤会長より、中教審（学習指導要領改訂の専門委員会）への対応のための特別委員会「文化人類学教育特別委員会」の設置について提案があり、承認された。委員は、森山理事を委員長とし、須藤会長、三尾理事、杉本良男氏（国立民族学博物館）の4名とすることが提案され、承認された。
6. 「倫理ガイドライン」の作成について
 - ・松岡理事より、倫理規定検討委員会はどこまでを検討し活動を行うべきかとの提案があり、議論の結果、倫理規定検討委員会内で倫理委員会の設置について検討を進めることと、2008年度総会での承認を目途に来年3月頃までにたたき台となる下案を作成することを承認した。
7. その他
 - ・森山理事より、人類学関連学会協議会のシンポジウムが11月4日に高知工科大学で開催されることと、本学会から代表として名誉会員の川田順造氏が出席すること、学会予算から旅費を支出することを報告。

以上